

築理会報 98 新年号

1998年3月発行 Vol.21

発行所:東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部 ・ 部建築学科

築理会事務局 03-3260-4271(内3293)

03-3235-6897(FAX)

築理会活動に参加を

築理会会長 八木 嘉也(部3期)

昨年来の不況感は激しく、特に建築関係業界は厳しさを加えてきております。最近是人に会う毎に厳しくて会社がどうなるかという話しか聞かれません。設計業界もご多分に漏れず、厳しい状態が続いています。めっきり仕事が少なくなり、大変な時代を迎え、21世紀に向けてどう対応するのか問われています。製造業のように売れ筋を見極め商品を企画・製作し、利益を生み出すのと違い、建築関係業界は請負が主であるだけに今日の不況時は真っ先に設備投資が減少され、仕事を失うのが厳しい状況になります。これからは情報を得て仕事をいただくのではなく、一部すでに行われているところもありますが、提案型の仕事を作り出す時代かもしれません。

最近、各地で市民活動が活発化しており、機会を見つけてはいろいろな場に参加をしていますと、従来の会社の仕事一辺倒の人ではなく、いろいろな趣味とか、市民活動、同窓会活動等に多くの人が関心をもって積極的に参画して、別の自分を作り出しています。私も現在築理会活動の他、ある自主的な勉強会的な市民活動の世話人をしてますが、各種の会合の企画、案内、司会、取りまとめ等忙しさの中でむしろ楽しんでます。いろいろな方に会える楽しさと、新しい知識の吸収等得るところが多く、充実した時を過ごせます。これらの活動に参加して思うのは、積極的に参加している人は、むしろ会社人間よりは生き生きしているように思われます。忙しさの中でむしろ楽しんで各種の会合に勢力をつぎ込んでいる方が多くみうけられます。

昨年来の大企業の倒産や自主廃業といった現象がある日当然に起こる今日の経済状況の中で、これまでの会社一辺倒ですべてを会社に力を注いでいるばかりなのは、今の時代にははやらないといわれています。異種業種の会が活発化しているほか、いろいろな趣味とか、個人の資格での活動、地域との関わり、いろいろな人脈が必要になってきているように思います。

さて、私たちの築理会も活性化をめざしてスタートして3年目に入りました。スタート当時に比べると、中だるみの感がありますが、おかげさまで常任幹事と幹事及び会員の皆様のご協力によって各種の施策が順調に推移しています。しかしながら、相変わらず会費を納入していただける方の増加ははかばかしくなく、会報の定期発行による会員への周知、名簿の作成等に努力をしていますが、会計上は厳しい状態であります。会費の自動振替も実施することにしています。会員皆様に関心をもっていただくための努力はしておりますが、

今年は尚いっそう会員の皆様に関心をもっていただきたいと考え努力していきたいと思っています。

最近ではインターネットなどパソコンによる通信が広まってきましたが、築理会でもホームページをもとと企画して進めているところですので、開始にあたっては各地の皆様により情報が伝えられると考えますので、大いに活用していただきたいと思います。

今のところは、幹事の皆様には多少無理を承知でお願いをしており、ボランティアで各種施策をお願いしております。

これからは若い会員にも活動の中核を担っていただきたいと考えておりますので、交代で、幹事を引き受けていただきたいと思います。各期の同期会を開くなどしていただき、各期の幹事を選出していただいて築理会活動に参加していただければと思います。

不況の激しい時代には、同じ学校で学んだ仲間の結束がより必要ではないかと思いますがいかがでしょうか。他の大学を見るとそういった結束は強いところが多くてうらやましい感じがあります。東京理科大学の工学部は、歴史が比較的新しい事もありますが、今年で3期生が卒業後30年を迎えます。これまでに4千名を超える皆様が各所で大いに活躍されています。

卒業生を結ぶ築理会を大いに活用していただくためにもみなさんの積極的な参画をお願いし、より活性化を図り、これから卒業する後輩のためにも大いに活動をしていきたいと思っています。今年も築理会活動にご協力をお願いします。

会費納入のお願いと

会費・口座自動払込開始、ご協力を

事務局長 大岩昭之(部3期)

会員の皆様方には日頃、築理会の運営にご協力いただきありがとうございます。築理会も最近では名簿の発行に加えて、会報の年4回の発行、セミナー・見学会の開催、それに新年度からはインターネット、ホームページの開設など、活動も以前に比べて活発化しています。これも会員の皆様、一人一人の力添えの結果だと感謝しております。しかし問題がないわけではありません。それは会費納入率の伸びなやみです。昨年度('97年度)は会員4,074名(住所把握会員3,409名)に対して、会費納入者は464名('98・1/30現在)でこれは会員数(実数)からいえば13.6%です。'96年度が460名、'95年度は予算で600名・会費収入300万円見込んで、実質294万円('97年度は234万円)でした。現在とはシステムが異なるので単純には比較できませんが、古くは81年度の築理

会決算報告を見ると卒業生名簿代(会費)として605名(81年度新卒、卒業式の時に集めた103名を除く)納入されています。当時の会員数1,311名ですので全体数に対しても46.1%です。その次の年(82年度)も名簿代支払者数として778名(約48%)と記載されています。このようなことから考えると、築理会に対する関心は、全体としては決して盛り上がってきているとはいえません。会費納入率から見れば、むしろ悪くなっています。

ところで会費納入についてですが、振込は意外と面倒なものです。金額よりもその手間により、つい振込を忘れてしまう場合もあるでしょう。それで今回、会費納入を銀行・郵便局口座からの自動払込も始めることにしました。本来、自動払込はかなりのパーセントの納入率があって有効だとサービス会社の人にも言われたのですが、築理会をぜひ支援したいと思われる方が、一人でも多くおられることを願って今回、自動払込を始めました。同封の用紙に記入の上、返送していただく事をお願いいたします。以前のように納入率が40%を超えれば会の運営は非常に楽になります。それは現在では夢のような話ですが、せめて会員の2割の方々が納入していただくのが当面の目標です。そのためには口座自動払込に、ぜひご協力をお願いいたします。

平成9年度築理会決算報告

収 入		支 出	
平成8年度繰越金	1,388,071	会報	1,971,737
築理会会費	2,267,642	名簿	548,822
事業収入 セミナー(6回)	122,000	事業支出 セミナー(6回)	197,500
総会・懇親会	300,000	総会・懇親会	259,510
		OBと語る会	29,540
広告料	65,000	事務・運営	379,313
銀行利息	600	繰越金	756,891
合 計	4,143,313	合 計	4,143,313

事業委員会の活動報告と展望

河合康夫(1部8期)

早いもので平成9年度の活動を総括する時期となりました。事業委員会では、下記の活動を実施して参りました。先生方そして会員皆様のご協力により実施することができまして、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。この1年間の活動報告・反省と平成10年度へ向けての展望について触れてみたいと思います。

1. 活動実施報告

1) 築理会幹事会、総会

日 時: 3月8日、場所: 理窓会館

出席者: OB会員22名、先生方5名

内 容: 平成9年度の活動方針の連絡及び先生方と会員相互の築理会活動の今後へ向けての意見交換

2) 建築業界の説明会

「今、建築業界は一建築学科OBに聞く」

日 時: 11月29日、場所: 理窓会館

出席者: 学生47名、先生方1名、OB15名

内 容: 在校生(主として4年生、大学院生)を対象に建築業界の現況及び就職活動への助言等

3) 現場見学会

日 時: 9月26日、

場 所: 晴海1丁目超高層住宅(50階建)

出席者: 20名

内 容: 躯体のサイクル工程及び仕上げ工事を中心に見学

4) 研究セミナー

場 所: 理窓会館会議室

上半期 総参加者88名(内、学生46名)

第1回、5月23日、志水英樹先生「イタリア丘陵都市を歩く」

第2回、7月4日、安岡正人先生「見えない環境 電磁波」

下半期 総参加者159名(内、学生82名)

第3回、10月2日、井口祐祐先生「メキシコ建築見聞」

第4回、10月31日、田村明先生「まちづくりとは何か」

第5回、11月28日、平野道勝先生「建築センター構造評定について」

2. 活動をふりかえって

1) 全体として

いずれの活動に於いても参加者は50名程度(現場見学会を除く)ですが、学生の出席者の比率が高いということがいえると思います。研究セミナーの場合は1回当たりの平均出席者数が49.4名(内学生25.6名)程度です。会報に事前に予告記事を掲載しておりますが時間的な問題もあり、忘れてしまうということが最も大きいかと思えます。しかし、97年度は日経アーキテクチャに予告を掲載する等した結果、平均出席者数は96年度に比較して20名程度増加しました。各期毎の連絡網的なものがないので再度連絡したい場合にも充分できないということが今後の課題かと思われます。

2) 参加形態について

築理会活動へ参加できるのは、主に東京近郊に居住する会員に限定されています。それ以外の会員に対する活動形態を検討する必要があると思えます。

3. 平成10年度へ向けての展望

平成9年度の活動の反省を踏まえて平成10年度は下記内容について検討したいと思います。

1) 各種催物の出席者増に向けて

各期幹事への案内とその期の会員への連絡のお願いの実施(最低限、各期の幹事が決まっている必要があります)。

雑誌への公示(例: 日経BP(社)の継続的实施)

2) 研究セミナーについて

開催時期と回数について

会場及び先生方の都合により、全4回とし5月、6月、10月、11月を基本としたいと思います。

参加費について

築理会費納入者とその他の人で区分したいと考えています。

講師・企画について

理科大OB及び外部の方々に参加していただき盛り上げたいと思います。

3) 情報化時代への対応

インターネットに築理会のホームページを設置し会員相互の情報交流を実施したいと思います。原案は完成しております。本年3月には実現できると思えます。

事業委員会: 山口秀之、五十嵐真人、小泉隆、佐野吉彦、河合康夫

名簿委員会より

名簿委員会 11期 田中治, 14期 西澤良彦,
18期 吉川和秀, 05期 島田徹也,
22期 岩井今朝典, 08期 斉藤栄士

この3月に平成9年度版名簿(新卒生予定者掲載)が発行されます。刷り上がりは3月中旬を予定しております。電子メールのアドレスも寄せられた情報が増えた段階で掲載しようと考えております。その他、皆様方からのご意見もお聞かせ頂ければ可能な限り反映させて行くつもりです。また名簿に広告を掲載致しますので、OB皆様方の関連企業からもご協力いただけるようお願いいたします。詳細・ご意見は事務局宛 FAXにてお願いします。名簿送付先・送付時期は3月中旬に会費納入済みで平成8年度版が品切れでお送りしていない方にお届けできると思います。ついながら未納の方は、この機会に会費の納入をお願いいたします。

会員消息:現在の会員数 この3月卒業予定者は含まずは4000名を越え、内訳は以下ようになっております。

98/02/03現在築理会会員データ		
会員数	4075	(:2846, :1223,院:5,跳:1)
物故	27	
住所不明	657	

跳 : は跳び級他大学院進学

名簿データのサービスに関して、企業名・地方別などの検索結果がご利用いただけます。出力は名簿形式あるいは宛名シールなどの出力結果のみのサービスとし、安全上テキストなどのデータ出力は当面サービス対象外と致します。同期会・お仲間が集まるときなど、おおいにご利用下さい。住所・連絡先不明会員数は現在690名となっております。会員数の増加に伴い皆様からの情報・協力がなければ調べきれない状況になっておりますので、少しでも多くのご情報をお待ちしております。

会報委員の反省会、実況中継

伊谷 # 会報の昨年1年間の活動報告をまずは総括しなければならぬのですが、一昨年の会報の内容よりは、若干ステップアップしたかなと思います。築理会の活動自体が定常化してきたこともあるのですが、新たに渋川さん(部4期)と安達さん(部21期)に加わって頂いたことも大きな要因だと思います。記事内容についても視点が広がって来ていると思います。そのあたりについて、実際毎号の編集作業をやって頂いている平賀さんは、どのように感じていらっしゃいますか。

平賀 # うーんそうですね、私について言えば会報委員に入ったころは(95年夏号だったかな)缶う作る(DTPソフトを使う)ことだけで精一杯だったので、内容なんて何がなんだかさっぱりってな感じでしたが、昨年当たりからやっと余裕が出来て、興味をそそる内容とかカッコイイ見栄えとか考え出して、けっこう遊んじゃっているんです。いつお叱りをくらうかヒヤヒ

ヤモンですが)、だからけっこう楽しくて、前みたいに難しい記事ばかりじゃなくなってきているので嬉しいんです。ただ、OBの方々からのリアクションがなかなか届かないのが、ちょっと寂しいですね。いっそ会報委員のメールアドレス公開しちゃうってのもいいかも。じゃあ次は伊藤さんをお願いします。

伊藤 # いつも編集長のアイデアにのっかっていて、自分なりに考えたことがなく申し訳なく思っています。会報委員だけで内容を考えるのは大変なこと、これからもっと充実させるためには読者の参加が不可欠だと思います。その1つの手段として、メールを活用しようとする平賀さんの意見には賛成です。今後もこの発行ペースと内容を維持するためには、メンバーの増強と人事ローテーションの確立が必要になるでしょう。では、安達さんお願いします。

安達 # ううっ。回ってきてしまった。なんかババ抜きやってるみたいだなあ。伊藤さんが指摘しているようにメンバーの増強と人事ローテーションの確立はやっぱり必要だと思うなあ。今の会報委員は平賀さんを除くと、中年に差し掛かりの半オヤジ世代に集中しているので、もっと若くてびちびちした血がほしい。そこそはっていう人、いないかなあ。楽しいですよ。それから誌面はまだまだ硬い。もっとやわらかくやわらかくしましょう。建築の仕事もやわらかい頭を持たないとやっていけないですよ。ここはひとつ、会報委員から寄稿を頼まれたら、いい訓練の機会だと思ってやわらかくておもしろい文章を締め切り前に、頼みますよ、皆様。おお見事に決まったかな?では渋川さん、お願いします。

渋川 # 会報委員に入る前は、会報はほとんど一瞥しただけでしたが、産む苦しみを知らただけ、愛しさを感じるというが(少々オーバーですが)、今は隔々まで目を通してます。でもやはり内容は、建築の世界の中だけなんです。当然といえば当然ですが、モノコードでなく、何か他ジャンルを通してキャッチボールができないものかな?と思っています。ということで森さんお願いします。

森 # 1年に4回の発行はやはり厳しいですね。柔らかいネタも取り混ぜて年に3~2回の頻度に落として内容の充実を図るのがよいと思います。編集長は会報委員会の内部で持ち回りという手も。会員のEメールアドレスのリストはぜひほしいところ。今後は、Eメールで編集会議というのもいいでしょう。いつ終わるかわかりませんが.....。

伊谷 # 大体、皆さんの意見は共通しているようですね。特に、世代というかメンバーの固定による硬直化と組織自体の活性化とは常に背中合わせの問題を孕んでいると思います。恐らく、このことは築理会自体の問題でもあるわけで、会報委員会の中だけで解決できないことだと思います。このことを会報で取り上げ、会報委員長への引責問題を引き起こし辞任するというのは、恰好すぎるかもしれませんが、組織として存続していくためにはこれ位の大鉈を振るわないと前へ進んでいけないのかもしれないという所でこの記事リレーを終わらせたいと思います。

追伸 : 今回の記事は会報委員のあいだで電子メールの交換に基づいたものです。

築理会主催 現役学生への進路アドバイス 「いま建築業界は 建築学科OBにきく」開かれる

さる11月29日(土) 理窓会館3階会議室で築理会主催の「いま建築業界は 建築学科OBにきく」が開催された。出席者は学生47名(部19名、部13名、修士15名)OB15名、それに部の就職幹事をされている直井教授にも出席いただいた。進行は佐野吉彦氏(安井建築設計事務所14期)会長 八木嘉也氏(丸ノ内建築事務所3期)の挨拶に続き、各パネラー、林理氏(建設省14期) 椎橋孝氏(スタジオキューブ14期) 西澤良彦氏(足立区役所14期) 五十嵐真人氏(積水ハウス8期)の4氏から、まず自己紹介を兼ねて現在の仕事内容などが話された。話はその後、求人案内などに書かれているものだけではなく、学校で学んだことは直接仕事には結びつかなくても、どんな場合にも対応できる能力を身に付けていくことが必要など、現場の仕事に基づいた話は学生諸君にも新鮮だったようである。会はパネラー形式から、少し軽い飲物をのみながらの懇談会に移り、これには出席していた各OBも交えた懇談のテーブルがいくつもできていた。最後に副会長坂下誠氏(インテグリティスカラベ2期)の挨拶で閉会となったが、築理会初めての企画はまずは成功だったようである。ただ今回、仕事の都合で予定していた江口昭彦氏(清水建設14期)が欠席されたので、ゼネコンの現場の話が聞けなかったのはすこし残念であった。出席した学生には女子学生も多かったがこれは昨今の就職状況の厳しさを、先輩などから聞いているからだろう。しばらくするとまた来年度の就職戦線が始まる。OB諸氏のところにも築理会予備軍(学生)からの問合せなどもあると思うが、よろしく配慮を願う次第である。

(大岩記)



<参加者の声>

矢島詠子 平野研究室修士1年

現代、色々な情報が溢れています。しかし、いざ就職活動を始めようとすると、自分が欲しい情報をどこから得ればよいのかわかりません。就職情報誌等から企業の概要はわかりますが、『職場の雰囲気』や『配属後の

具体的な仕事』はなかなかつかむ事が出来ません。これは就職後数年で転職する人達の多くが理由として挙げています。そのような重要な情報だからこそ、正しい情報を得たいです。それには実際に働いている方々に聞くのが一番ですが、直接知っている人が希望する企業にいるとは限らず、研究室のOB名簿を調べても連絡方法等戸惑うことばかりです。今回の「いま建築業界は 建築学科OBにきく」はあらゆる方面にお勤めのOBのお話を伺い、また知己を得る良い機会でした。

1部はOB代表によるシンポジウム、2部は分野別の懇談会でした。2部で、私は公務員の席で建設省の林理氏、足立区役所の西澤良彦氏、元郵政省の八木嘉也氏(現丸ノ内設計事務所)のお話を伺いました。ビールを片手の懇談は、通常のOB訪問よりも気楽で、質問もしやすい雰囲気でした。また、より本音に近いご意見を聞かせていただけた様な気がします。国家公務員と地方公務員がいらしたので、それぞれの業務内容等の対談からその違いがよく分かり大変参考になりました。機会があれば都庁(県庁)の方も含め国、県、市の対談も聞かせていただきたいです。

最後に、全体的な感想を述べさせていただくと、OBのお話を伺う良い機会であったのですが、年の近いOBの参加が少なく、就職に関する具体的な事、例えば『どのように企業訪問をしたのか』『就職対策として何をすべきか』等を聞けなかったのが残念でした。

お仕事の合間を縫って参加いただくのは大変なことだとは思いますが、このような企画を毎年続けていただきたいです。

佐藤恵利子 伊藤研究室修士1年

11月29日に築理会主催の「いま建設業は 建築学科OBにきく」に参加させていただきました。「就職」という言葉がちらつきはじめた時期で、まだ自分の将来について漠然としか考えていなかったのですが、この会をきっかけに自分の将来についてじっくりと考える機会をいただきました。パネラーの方々の仕事内容などのお話は、同じ大学の先輩だけにとても身近に感じ、私にとって励ましにもなりました。私は設計を志望しているのですが、スタジオキューブの椎橋孝さんのお話はとても興味深く聞かせていただきました。またそれだけでなく、足立区役所の西澤良彦さんの住民の方々とのやりとりについての苦労話など、多種の仕事内容についてお話が聞けたことはとても貴重な体験となりました。

また、懇談会では直接先輩方とお話ができ、仕事内容から生活スタイルのようなプライベートなお話まで非常に熱心に應對していただきました。私は日本設計の常盤純代さんに、同世代の女性として意見を聞かせていただきました。いままで学生社会の温室に浸かっていた私にとって、実社会での先輩のお話はとても新鮮でした。特に女性として社会で働くことの意義につい

て考えさせられました。また自分の夢をもって仕事に向かう姿勢、仕事に対する熱意を強く感じ、そのような考え方に共感しましたし、私にとって励みになりました。時間が限られていて、他の先輩方のお話を聞くことができなかったことは残念でした。

この場をお借りしてこの会を企画して下さった方々、OBの方々にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。また、これからもこのような会を継続していただきたいと思います。

小倉麻希 笠原美幸 牧島美玲 藤原ひとみ
工学部1部建築学科3年

11月29日にOB会シンポジウムが開催され、建築業界の厳しさが騒がれる今、女子というハンディを持つ私たちは多くの不安を持ちながら参加させて頂きました。

当初は緊張し、質問する余裕もありませんでしたが、OBの方々が学生時代の思い出や笑い話をまじえて話して下さったため、多くの貴重なご意見をうかがうことができました。

私たちは設計部門を専攻していますが、設計事務所やアトリエは設計する者にとって、自由に表現し、自身のアイデアや能力を活かすことができる、というようなあこがれや理想の場としてとらえ、営業や経営などの現実問題から目をそらしがちだったところがあったと思います。また、一般企業に対しては、実際「歯車」という言葉をよく耳にしますし、型にはめられ融通がきかない、といったマイナスイメージを強く持っていました。

その私たちに対してアトリエの椎橋氏はアトリエとしての長所だけでなく、知られていない実状をも話して下さいましたし、積水ハウスの五十嵐氏はご自身の仕事に対する自信や熱意がこめられた態度で接して下さいました。

今までは学生の立場からの勝手な願望・理想・誤解を多くもち、狭い範囲でしか見ることが出来なかったと思いますが、今回多方面からさまざまなご意見をうかがうことができ、視野が広がり、多くの可能性を与えて頂いたと感じています。

また私たち女子にとって心強いご意見を得ることができました。三井建設の河合氏はご自身の部下である女性の活躍について語って下さいましたし、「女性の仕事はきめ細かく、戦力になる」とうかがって、そう感じてくださる方もいるのだと、これからの厳しいであろう就職活動に希望を持って臨むことができる気がしました。

最後になりましたが、お忙しい中お集まりくださり、またこの会を企画して下さいましたOBの方々、どうもありがとうございました。

会員の活躍

最近のコンペ入賞者を報告します。研究室等に聞いて把握できた範囲なので、もし漏れている方がいましたらごめんなさい。ぜひご一報下さい。次回には必ず掲載します。また随時、このような会員の活躍を報告したいと考えておりますので、入賞等しましたら築理会事務局までぜひご一報ください。(1部22期、小泉隆)

* 順不同。コンペ別。

- 1) 川崎製鉄主催、川鉄デザインコンペティション
「Steel will 鉄の可能性を求めて」
入選:小林由佳(2部17期、鈴木研M2)
入選:池上知久(1部31期、志水研M1)+市村将太(学部3年)
- 2) 東京建築士会主催、第32回建築設計競技
「21世紀の生涯学習の場」
佳作:小林由佳(2部17期、鈴木研M2)
- 3) 第7回SXL住宅設計コンペ
「ミース・ファンデルローエの家」
佳作:林 清隆(学部4年、鈴木研)
- 4) 財 吉岡文庫育英会主催、建築学生・設計大賞'97
「装飾された家」
奨励賞:佐藤恵利子(1部32期、伊藤研M1)
- 5) 住宅金融公庫主催
マルチメディア時代の住まいデザインコンテスト'97
「マルチメディア時代の住み方」プロフェッショナル部門
隈研吾賞:佐藤恵利子(1部32期、伊藤研M1)
共同制作:谷川大輔(1部32期、東工大・大学院)
- 6) 東京ガス主催、第11回建築環境デザインコンペ
「新しいタイプの都市公園」
優秀賞:池上知久(1部31期、志水研M1)+高橋明子(志水研4年)
選外佳作:高尾勇次(1部31期、志水研M2)、茅昌樹(1部32期、志水研M1)、小島真紀(2部18期、志水研M1)
- 7) 森ビル主催、森ビル・都市デザインコンペ'97
「2006年TOKYO」
特別賞:林直希(学部4年、井口研)+森雅規(1部32期、井口研M1)
一次審査通過:池上知久(1部31期、志水研M1)、他3名
- 8) リビングデザインコンペ
「現代風長屋」
グランプリ(1st prize):元永二郎(2部15期)+他3名
準グランプリ:作並義彦(2部11期)
- 9) 社 建築士会連合主催、平成9年度懸賞設計競技
「マルチ・ファミリーの住まい」
奨励賞:松川昌平(学部4年、鈴木研)、喜多理絵子(学部4年、鈴木研)、三戸淳(学部4年、志水研)
- 10) 新建築主催、新建築住宅設計競技1997
「コラボレーションの家」
1等:菊地宏(1部31期、鈴木研M2)

インフォメーション

平成10年度 懇親会・新会員歓迎会

日時：98年3月18日 19:00～21:00
 場所：理窓会館3階 会議室
 参加費：一般会員：5,000円、新会員：無料

*多くの会員が参加しやすいよう、参加費を安くしました。年1回の集まりです。みなさんお誘い合わせの上、ご参加ください。

参加希望の方は、本最終ページのデータ確認カードにて、3/13までにお申し込みください。

平成10年 理科大2部建築学科OB会のお知らせ

このたび春のOB会を次のように開催いたします。今回は、この程、建築巡礼「ルイス・カーン - 構築への意志 - (丸善)をお書きになりました。松隈洋先生(前川建築設計事務所)に御講演頂けることになりました。パネラーとして志水英樹先生、宮田節男先生をお迎えしてお話をうかがいます。

参加資格は問いませんので友人、知人の方も誘いになって奮ってご参加ください。

日時：3月24日(火) 18:00～21:00
 会場：本校若宮校舎12番教室
 問合せ：2部16期 竹内 宏彰
 (株)インテグリティ スカラベ
 TEL:03-5818-5671

編集後記

築理会の活動に本格的に参加してから、早3年ほど経ちますが、これまでの経緯からややマンネリ化してきているのではないかと率直に思います。会報も一方通行の感が拭えませんし、実際今後何を取り上げていけば、同窓会の会報としてふさわしいのか見えていません。

まだ会員数が他校に比べ少ないため、思い切ったことが出来る環境にあるはずなのですが、外圧のひとつもない状況では、克服や制圧といった側面を見せられません。何等かの欠落や圧力の存在が、ある豊穡を産み出すと私は思います。(伊谷峰)

築理会報98新年号
 98年3月発行 Vol.21
 編集長：伊谷峰
 編集委員：森清、伊藤学、安達功、
 洪川克也、平賀一浩
 印刷発送：グローバルシステム株式会社

平成10年会費納入のお願い

今回より平成10年度の会費の納入をお願いします。今後のさらなる築理会発展のためにご協力をお願いします。

なお、かねてよりご希望のありました口座自動引落しによる会費の納入も可能となりましたので、そちらの方もよろしくご検討ください。

年会費 5,000円
 口座名 築理会
 郵便振替 00110-5-171952
 銀行振込 三菱銀行神楽坂支店 普通 4335597

募集します！

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。「こんな特集して!」「や」こんな宣伝がしたい!」「最近これおもしろいよ!」など、どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。

築理会あてFAXにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいませ。様お願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：建築学科事務室内・築理会事務局

名簿作成委員会

築理会員データ確認カード		記入日：19 / /
ふりがな：	卒業年	年3月
名前： (旧姓)	(期 研)	
<input type="checkbox"/> 部 <input type="checkbox"/> 部		
ふりがな/勤務先：		
ふりがな/部署・役職：		TEL
		FAX
電子mail：		
現住所：(〒)		
		TEL
		FAX
電子mail：		
現住所以外の安定的な連絡先、具体的な連絡方法及びTEL：		
所属学会 <input type="checkbox"/> 日本建築学会 <input type="checkbox"/>)		
<input type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/>)		
通信欄		
平成10年度 懇親会・新会員歓迎会に参加します。		

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。